

# 風水害対策

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。  
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。



## 大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策。

### 強風注意報・暴風警報

強風により被害が発生するおそれがあると予測される場合や暴風により重大な災害が発生するおそれがあると予測される場合。

### 大雨注意報

大雨により被害が発生するおそれがあると予測される場合。

### 大雨警報

大雨により重大な災害が発生するおそれがあると予測される場合。

### 大雨特別警報

数十年に一度の大雨となるおそれが大きい場合。

上記以外に「記録的短時間大雨情報」があります。(1時間雨量が100mm以上)  
「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。  
これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。

## 雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

## 風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10以上~15未満	15以上~20未満	20以上~25未満	25以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

## 台風

- 日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
- 台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

## 集中豪雨

- 集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
  - 発生の予測は非常に困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。
- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
  - 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
  - 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
  - 飲料水や食料を3日分確保しておく。
  - 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
  - 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
  - 非常時持出品を準備しておく。
  - 危険な地域では、いつでも避難できるように準備をする。

つねに気象情報には、注意しておきましょう！



### 地下道(アンダーパス)に注意!

アンダーパスとは、道路や鉄道など立体交差する場合、その下を通る地下道をいいます。大雨・洪水などにより、アンダーパスの道路は真っ先に浸水してしまいます。地域のアンダーパスの場所を把握し、もしもの時に備えて迂回路を想定しておきましょう。普通自動車の場合、約30cmの浸水で走行困難になります。